



## 留学だより No.1

こんにちは、私は AFS でフランスに留学しています。9月2日に日本を出発し、一か月が経ちました。今年はコロナとウクライナ戦争が相まってホストファミリーの数が十分でなく、もしかしたら延期や中止になっていたかもしれない中、無事に受け入れ先が決まったことに感謝しています。



### 到着→オリエンテーション

15時間のフライトを終え、パリのシャルル・ド・ゴール空港につきました。荷物をもらい出口へ向かうと、違和感を覚えました。マスクをしている人がいなかったからです。二年前までそうだったはずなのに、新鮮でした。(今、フランスではコロナが話題になることはほとんどありません。学校でもスーパーでも駅でもマスクをしている人は一日1、2人くらいしか見ません。逆にマスクしているほうが変、という感じです。)私のほかに日本人のフランス派遣生が9人いたのですが、みんなでマスクを外して宿泊場所へのバスを待ちながら楽しく喋っていました。すると突然ブラジル、フィンランド、タイ、中国などさまざまな国のフランス派遣生が来てびっくりしました。テンションマックスで「Hello! Where are you from?」と言われて会話が始まり、そのテンションのままバス(15分遅れ)に乗りました。日本の電車やバスは時間ぴったりに来ますが、フランスでは15分遅れは遅れに入らないといわれました。バスの中では少し喋った後、急にブラジル人勢がノリ良く歌い始めました。そのあとお互いの国のヒットソングを歌いあう流れになって、完全にパーティーみたいでした。ちなみに日本人勢は「夜に駆ける」を歌いました。楽しかったです。宿泊所についたあとは夕食を食べ、少しだけオリエンテーションがあり、部屋で就寝しました。私のルームメイトはアメリカ人、チェコ人、ポーランド人、タイ人でした。それぞれ全く違う国の人たちとの共同生活は初めてでわくわくしました。オリエンテーションでは大まかにいうと留学中に起こる様々な出来事について学びました。食事の時はたくさんの国の人たちと一緒に話せて楽しかったです。そして2日目の午後には、集団でのパリ観光がありました。私は小学生の時に3年間パリに住んでいたのですが、そのころに戻ったような懐かしい気分

でした。3日目は朝早くホストファミリーのいる Haute-Savoie (オートサボワ) 県へ派遣生約 10 人と現地スタッフで向かいました。フランス派遣生は全部で 200 人以上いるのですが、それぞれ地方に散らばります。私たちは日本でいう新幹線、TGV で 3 時間 + 車で 1 時間半くらい移動しました。

この 3 日間のオリエンテーションで、予想もしなかったたくさんの国の友達ができ嬉しかったです。AFS はこのようにたくさんの派遣国があるので、選んだ派遣国だけでなく、世界中に人脉ができるのが魅力だと思います。



船に乗ってセーヌ川クルーズ



TGV の車内からの写真

## ホームステイ先

長い移動の末、ホストファミリーが温かく出迎えてくれました。私のホームステイ先はフランス南東にある小さな町、Groisy (グロワジー) です。周りはアルプスの山に囲まれていて景色が良く、牛や羊が放牧されています。

私のホストファミリーの構成は両親、三人姉妹、犬二匹です。ホストシスターたちは全員大学生以上で平日は家にいなく、時々週末帰ってくる、という感じです。三人のうち二人が同じく AFS で日本に、一人が中国に行ったことがあり、さらに過去に 5 回留学生を受け入れたことがあり、ホストマザーは AFS のボランティアなので、かなり AFS な家族です。優しく温かく歓迎してくれました。

気候は乾燥していて、九月末ですでにダウンコートを着ています。寒いです。また、山に囲まれているため朝と昼の寒暖差が激しいです。最初は気温に振り回されていましたが、も

うだいぶ慣れました。



「ようこそ えな」ホストシスターが描いてくれた



きれいな風景

## 学校

私は Ecole Collège Lycée privé Saint-Michel という私立の学校へ通っています。住んでいるところから近くの大きな町、アヌシーの真ん中にあります。アヌシーは観光スポットがたくさんあるきれいな町なので、次回の留学だよりで写真を載せられたらいいなと思います。初日は、緊張はそれほどせず、授業と友達作りが楽しみでした。でも初授業の後、先生に「留学生で日本から来ています」と話したせいで教室を出るのが遅れたので、一人で次の授業に向かわなければならないと思っていたところ、教室の外で女の子二人が待っていてくれました。私に興味を持ってきてくれたので嬉しかったです。フランスの学校は授業が終わると教室の鍵が締まり、毎回リュックを背負って移動しなければならないので初めの週は正しい教室に行くのが大変でしたが、その子たちが助けてくれました。フランスの高校生は、休み時間はずっと外でしゃべっています。教室が締まっているからです。私も外で会話の輪の中にいましたが、友達はスラングをたくさん使うので最初の一週間は何を話しているのかわかりませんでした。寂しかったし悔しかったです。ホストファミリーにその話をしたところ、スラングのルールを教えてもらったので、二週目からは少しずつわかるようになり、今はなんとなく会話に参加できるようになりました。

あと、休み時間になると校門の外はタバコを吸う人でいっぱいです。驚くことに高校生がタバコを吸っています。日本では見ない光景なのでびっくりしました。学校では、校舎の外なら吸っていい、というルールになっています。合法なのかホストファミリーに聞いたら、フランスではタバコを買っていい年齢の制限はあるけど、吸っていい年齢の制限はない、ということでした。私のクラスメイトも吸っていましたが、幸い、授業の後に待っていてくれた女の子たちはタバコを吸わないので、そこからどんどん友達の輪が広がっていき、私の友

達は全員タバコを吸いません。良かったです。

授業は、歴史と国語の授業が私にとっては一番難しく、苦勞しています。なので、授業中に「わからない」と手を挙げて簡単な言葉で説明してもらったり、毎回ホストファミリーや友達に助けてもらって宿題をしたり、とたくさんの人の手を借りながらなんとかやっています。日本ではあまり授業中に個人的にわからないところで挙手する癖がなかったので、最初は躊躇しました。でも、フランス人はみんなわからないところや読めない字があったらすぐにラフに手を挙げて質問しているので、私もやってみました。



学校の校庭の写真

## その他

### ・スリ

フランスはスリが多いので日本にいる時以上に気を付けています。幸いスリの被害にはまだあっていないのですが、電車のホームにいるとき、男の人がいきなりお金を要求してくる、ということが1か月で2回もありました。一人でいたので怖かったのですが、日本人であることを利用し、フランス語が分からないふりをして逃げ切りました。

### ・日本との違い

TGVのアナウンスが流れた時、ハッとしました。余裕のある楽しそうな口調で、「搭乗員を紹介します。～です。それから清掃員の～です。彼らのおかげで車内はきれいになっています。彼らの仕事をたたえてくれてありがとうございます。ご理解ありがとうございます。」と言っていました。日本は裏での努力を隠してあたかも何もやっていないかのようにふるまうのが美德のようなところがあるけれど、フランスは、やっていることを全面で出してそれをみんなでリスペクトしあう文化があります。

どちらの文化も好きですが、「自分はこれを頑張っている。あの人はこれを頑張っている。」とお互いが違うこと、頑張っていることを認識してそれを尊重する、それ以上踏み込まないフランスの文化は楽でいいなと思いました。

À bientôt !

14期 吉沢